

整理番号	23-26	事務事業名	(成人保健事業) 大腸がん検診事業	作成部署	保健福祉部健康管理課	電話	内線807
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名 上村 弘志	課長職名	細川 和夫	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度		根拠法令等	健康増進法 老人保健法 がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針				
〃 終了予定年度							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	がん患者の増加傾向に対処し大腸がんの早期発見のため、老人保健法に基づく保健事業として実施した。						

## 1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	健康と医療	(第1節)
	施策	保健予防の推進	(第2施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	40歳以上の市民(社会保険本人、共済組合保険本人を除く)	
	意図(何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか)	大腸がんを早期に発見するために実施	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(補助金等の場合は団体等の活動内容)	16年度まで	北海道対がん協会検診センターにおいて、通年個別検診を実施し、送迎バス検診を年2回(4月・12月)実施した。 北海道対がん協会の巡回バスによる、市内5ヶ所の会館等において、集団検診を10月実施した。
		17年度	同上

## 2 実施(ドゥ)

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

	区 分	15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	192	135	193	200
	一般財源	3,961	3,912	3,725	3,820
	合計	4,153	4,047	3,918	4,020
人件費(概算)	人数(年間)	0.10	0.10	0.10	0.10
	1人当り年間平均人件費	9,235	9,000	9,000	9,000
	= ×	924	900	900	900
総事業費 +		5,077	4,947	4,818	4,920

## 【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指標	指標(算式)	指標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	検診対象者数	11,933人	12,587人	13,200人	13,850人
	受診者数	1,756人	1,726人	1,780人	1,780人
	精検者数	112人	97人	90人	90人
	発見がん	2人	6人	4人	4人
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	受診率	14.72%	13.71%	13.48%	12.85%
	精検者率	6.38%	5.62%	5.05%	5.05%
	発見率	0.11%	0.35%	0.22%	0.22%
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	受診者1人当たり経費	2,891円/人	2,866円/人	2,707円/人	2,764円/人

### 3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	大腸がんを早期に発見するために必要な事業であり、全国の市町村において実施している。
---------------------------------	---

#### 【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	がん検診事業の一つとして市において実施すべき事業である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	大腸がんの早期発見のために必要な事業であり、対象、目的は妥当である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	検診は、北海道対がん協会に委託しており、手段は適切である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	受益者負担は、一般の方、非課税者・高齢者の方に対し、概ね対がん協会委託料の3割・1割程度負担してもらっている。	

#### 【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	大腸がんの早期発見に十分成果が上がっている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	大腸がん検診は十分効率的に実施している。	

#### 【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A      B      C

### 4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	大腸がんを早期に発見し、市民の健康を守るために必要な検診であるため、今後も引き続き現状のまま継続する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり